

時の

TOKI NO KOURO
A SEIJIRO KOUYAMA FILM

「ハチ公物語」「ふるさと」「月光の夏」「郡上一揆」
神山征二郎 第30回監督作品

の

行路



企画：中西繁 プロデューサー：藤野戸渡 協力プロデューサー：永田博康
原作：田島一（「時の行路」「続・時の行路」「争議生活者」新日本出版社刊）
音楽監督：池辺晋一郎 撮影監督：加藤雄大(JSC) 共同監督：土肥拓郎
脚本：土屋保文・神山征二郎 照明：鎌田春樹 録音：深田晃 編集：経田智子 美術：中山慎
労働組合指導：生熊改史 法律指導：今村幸次郎 協力：三島市 伊豆の国市 沼津市 八幡市 大月市 伊豆の国アートビレッジ 三島どんぐり合唱団 専修大学
音楽制作・演奏：株式会社東京コンサーフ レコーディングスタジオ：AVACO STUDIO 映像協力：ビデオプレス 貴森組
制作：共同映画株式会社 製作協力：「時の行路」映画製作・上映推進会議 製作・配給・宣伝：「時の行路」映画製作・上映有限責任事業組合 ©「時の行路」製作委員会 DCP-BD 16:9 5.1CH (111分)

石黒賢 中山忍

渡辺大 安藤一夫 綿引勝彦

松尾潤(新人) 村田さくら(新人)
宇田川かをり 塩頸治 池上リョウマ
川上麻衣子 日色ともゑ
(オレーション)



時の行路



ものがたり

青森の八戸でリストラにあった五味洋介(石黒賢)は妻の夏美(中山忍)と子どもたちを実家に残して静岡の大手自動車メーカーの工場の旋盤工として働きながら、仕送りを続けていた。洋介は派遣社員であったがベテラン技能者として職場でも信頼され、充実した日々を送る合間に家族を三島に呼び、ともに暮らせる将来を夢見て頑張っていた。

しかし、ある日突然リーマンショックに端を発した非正規労働者の「大量首切り」により職場を追い出されてしまう。洋介は理不尽な仕打ちに抗し、仲間と一緒に労働組合に入って立ち上がった。

だが洋介や妻たち、支援の人々の願いは届かず、会社と裁判所は冷酷だった。

そんな折、闘病中の夏美が倒れたという知らせを受け、洋介は郷里へ向かう。

解説

日本の自動車産業は1989年をピークにバブル経済が崩壊した後、つねに日本経済をけん引してきた。市場を全世界に広げ、アメリカ、ヨーロッパ、近隣のアジア諸国をはじめ、全世界に市場を拡大し、もの作り日本の顔として長く君臨してきた。

しかし、2008年にリーマンショックと言われる経済不況が吹き荒れ、その中で、自動車業界は防衛手段としてまず、人員の整理を敢行してきた。派遣工をはじめ非正規労働者を契約期間内であるにもかかわらず、大量に解雇してきた。労働者は組合を結成して、全国の支援者と家族に支えられてこの不当解雇を法廷闘争に持ち込んでいった。しかし司法界は次々と企業に有利な判決を下してきた。

「日本社会はこれでいいのか。」

鮮烈に問いかけた壮大なドラマ—「時の行路」完成試写会に臨んで



田島 一

「非正規切り」された一家の物語と「連帯」の素晴らしさが

神山征二郎監督は、「非正規切り」された主人公の洋介一家の物語を軸に、労働組合との関わりをおとし、働く者が自らの権利を主張してたたかうことの意味、

そして、弱者が力を合わせて強者に向かっていく「連帯」の素晴らしさを重厚に描き出していました。同時に、利潤第一で突っ走る大企業を擁護する裁判所の実態も鋭くあぶりだしながら、「これでいいのか」と、格差と貧困にあえぐ日本社会の現在と未来を、壮大なドラマで鮮烈に問いかけたというのが率直な感想でした。

光る、石黒賢さん中山忍さんの熱演。音楽に魅了されて

石黒賢さんの洋介、そして中山忍さんの妻は適役で、熱演が光っています。息子の涼一役の松尾潤さん、娘の綾香役の村田さくらさんも清々しく、妻の父親の堀引勝彦さん、弁護士の上川麻衣子さんの渋い演技も精彩を放ちます。三島という地の利を生かした風景、八戸のイカ釣り船、石黒さんが旋盤を扱う場面など、工夫された映像も楽しいものでした。ドラマの進行と一体になって展開される、池辺晋一郎音楽監督の旋律には魅了されます。

人間の美しさと希望が淡々と

争議生活と筋でお金もない主人公が、仲間や支援者からのカンパを持って病に臥す妻を見舞います。そのときの思いを切々と語る妻の回想シーンはハイライトです。洋介の今後は、八戸から東京に着いた夜行バスの早曉の光景と彼の表情に託されています。辛く、哀しい物語なのですが、暗さは微塵も感じられません。それは、神山監督と脚本の土屋保氏によって、諦めず希望を持って進む、人間の美しさが淡々と表現されているからでしょう。

映画は、社会と人間の秘体を深く見つめ、芸術創造の困難に挑戦しています。たとえば、非正規雇用で働く人々にとって今日大きな役割を果たしている労働組合のことなども、メディアではほとんど取り上げられません。けれども、そこに光を当てて写した映像の世界は、高く評価されると私は思いました。

この映画を世に送り出すために「草の根の運動」で尽力されたすべての方々に感謝し、生きる勇気を与えてくれる作品を、多くの老若男女が観てくださるよう願ってやみません。

映画「時の行路」栃木県上映会



県内10会場で上映予定!

※決定次第お知らせいたします。

宇都宮上映会

日時:2020年 4月3日(金)・4日(土) ①10:30 ②14:00
場所:とちぎ福祉プラザ(宇都宮) ③17:00

壬生上映会

日時:2020年 4月11日(土) ①10:30 ②14:00
場所:壬生町中央公民館(城址公園ホール)

鑑賞料金(2会場とも)

・前売券:1200円(大人のみ)
・当日券:1500円(大人)
1000円(高校生以下)

前売券取扱所

・やさい&くだもの村 全店
・栃木県総合文化センター
・宇都宮市文化会館

※6月より宇都宮ヒカリ座で上映予定!

主催:「時の行路」栃木県上映推進会議 028-653-1401
〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30 栃木県労連内
事務局:栃木県映画センター
090-9686-8045(高橋) 090-9340-2311(樋山)